

## 2022年5月期 決算概要

- 企業及びパブリックセクターからの BPO 需要を継続的に獲得。  
 人材需要の回復により、エキスパートサービス、キャリアソリューション（人材紹介）も事業が拡大。  
 売上高は 366,096 百万円（前期比 +9.4%）
- 販管費は事業拡大に伴う人件費を中心に増加。オペレーションの効率化によるコスト抑制に努め、  
 営業利益は 22,083 百万円（同 +10.7%）

### 1. 通期連結業績（2021年6月1日～2022年5月31日）

（百万円）

	2021年5月期	2022年5月期	増減	増減率
売上高	334,540	366,096	+31,556	+9.4%
売上総利益	82,969	89,671	+6,702	+8.1%
(売上比)	24.8%	24.5%	▲0.3pt	
販売費及び一般管理費	63,028	67,588	+4,559	+7.2%
(売上比)	18.8%	18.5%	▲0.3pt	
営業利益	19,940	22,083	+2,142	+10.7%
(売上比)	6.0%	6.0%	0.0pt	
経常利益	20,379	22,496	+2,116	+10.4%
(売上比)	6.1%	6.1%	0.0pt	
親会社株主に帰属する当期純利益	6,784	8,621	+1,837	+27.1%
(売上比)	2.0%	2.4%	+0.4pt	

### 2. セグメント別連結業績（セグメント間取引消去前）

（百万円）

	売上高	前期比		営業利益	前期比	
エキスパートサービス（人材派遣）	152,067	+2,933	+2.0%	18,345	+918	+5.3%
BPO サービス（委託・請負）	139,272	+25,217	+22.1%			
HR コンサルティング、教育・研修、その他	8,418	+804	+10.6%			
グローバルソーシング（海外人材サービス）	8,335	+1,273	+18.0%	447	+331	+285.6%
キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）	14,700	+837	+6.0%	4,470	+551	+14.1%
アウトソーシング	38,359	+515	+1.4%	12,765	+2,971	+30.3%
ライフソリューション	7,158	+588	+9.0%	232	+28	+14.2%
地方創生ソリューション	4,426	+1,181	+36.4%	▲2,612	▲285	—
消去又は全社	▲6,642	▲1,795	—	▲11,566	▲2,375	—
<b>合計</b>	<b>366,096</b>	<b>+31,556</b>	<b>+9.4%</b>	<b>22,083</b>	<b>+2,142</b>	<b>+10.7%</b>

#### 主要セグメントの増減理由

エキスパートサービス	一部業界や職種は前年からの落ち込みが継続したが、幅広い業種で前期末から緩やかな回復が継続。コロナ対策に係る期間限定の業務で人材需要が増加。
BPOサービス	グループ一括で受託できる強みを活かして事業が拡大。パブリックセクターからは、多様な働き方の推進や人材確保・就職支援に伴う需要が増加。
キャリアソリューション	人材紹介事業では、企業の採用意欲が感染拡大前の水準まで回復。再就職支援事業は、大規模な事業構造の見直しは落ち着き、需要が収まる。
アウトソーシング	昨年10月以降はサービス利用が回復。ヘルスケア事業が利益押し上げに貢献。期中に株式を取得した(株)JTベネフィット（22年4月1日 吸収合併）が当期第4四半期より業績に寄与。
地方創生ソリューション	関西圏での積極的なプロモーション効果もあり、兵庫県立淡路島公園アニメパーク「ニジゲンノモリ」を中心に来場者数が順調に推移。

### 3. 財政・投資の状況

#### ●財政の状況

(百万円)

	2022年5月期 期末	前期末比		主な増減要因
		増減	増減率	
流動資産	131,123	+22,261	+20.5%	【受取手形・売掛金・契約資産】 ・受託案件の増加に伴い増加
固定資産	72,473	+29,862	+70.1%	
資産合計	203,746	+52,104	+34.4%	【有形固定資産】 ・地方創生事業等の資産増加 【顧客関係資産】・【のれん】 ・ベネフィット・ワンの JTB ベネフィット買収に伴い増加
流動負債	83,555	+12,779	+18.1%	【長期借入金】 ・資金調達により増加 【預り金】・【買掛金】 ・受託案件等により増加
固定負債	53,044	+21,957	+70.6%	
負債合計	136,599	+34,737	+34.1%	
純資産合計	67,146	+17,367	+34.9%	【自己資本比率】 ・受託案件に係る「預り金」を控除した場合は 25.8%
自己資本比率	24.5%	▲0.7pt	—	

#### ●キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当期末残高 56,578百万円(前期末比 4,279百万円)

(百万円)

	2022年5月期 期末	前期末 増減	資金増減の主な内訳
営業活動による CF	10,115	▲8,753	【増加】 ・税金等調整前当期純利益 22,290 百万円 ・減価償却費 4,419 百万円 【減少】 ・売上債権・契約資産の増加 6,112 百万円 ・法人税等の支払 8,084 百万円
投資活動による CF	▲29,624	▲19,959	【減少】 ・有形固定資産の取得による支出 11,632 百万円 ・子会社株式の取得による支出 10,451 百万円 ・無形固定資産の取得による支出 4,683 百万円
財務活動による CF	23,543	+28,690	【増加】 ・長期借入れによる収入 29,129 百万円 ・子会社株式の売却による収入 6,523 百万円 【減少】 ・長期借入金の返済による支出 11,098 百万円 ・配当金の支払 3,584 百万円
フリーCF	▲19,509	▲28,712	

#### 4. 2023年5月期（2022年6月1日～2023年5月31日）連結業績予想

2023年5月期の売上高は385,000百万円（当期比5.2%増）、営業利益は22,300百万円（同1.0%増）、経常利益は22,500百万円（同0.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は8,700百万円（同0.9%増）を計画しております。なお、これらは足元の業績推移をもとに、現時点で入手可能な情報や予測等に基づいて当社グループ各社の影響を集計・予測するものであり、実際の業績は感染症の収束時期や経済状況など様々な要因により変動する可能性があります。

（百万円）

	2022年5月期 通期実績	2023年5月期予想						
		通期	増減	当期比	上期	当期比	下期	当期比
売上高	366,096	<b>385,000</b>	+18,903	+5.2%	<b>189,000</b>	+3.6%	<b>196,000</b>	+6.8%
営業利益	22,083	<b>22,300</b>	+216	+1.0%	<b>7,800</b>	▲35.0%	<b>14,500</b>	+43.7%
経常利益	22,496	<b>22,500</b>	+3	+0.0%	<b>8,000</b>	▲34.2%	<b>14,500</b>	+40.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,621	<b>8,700</b>	+78	+0.9%	<b>3,000</b>	▲37.5%	<b>5,700</b>	+49.2%

#### 5. 配当について

- 当期は2022年7月15日の取締役会決議に基づき足もとの業績等を総合的に勘案したほか、連結子会社であるビーウィズ株式会社が東京証券取引所市場第一部に新規上場（4月4日よりプライム市場へ移行）を果たしたことから、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表すため、1株当たり30円の普通配当に加え、5円の特別配当を加えた合計35円の期末配当を実施
- 次期の配当は、当社配当方針に基づき継続的かつ安定的な配当の維持に努めることから、1株当たり35円を予定

		年間配当金（1株当たり）			配当総額	連結配当性向
		中間	期末	合計		
2022年5月期	—		35円00銭 (普通配当) 30円00銭 (特別配当) 5円00銭	35円00銭 (普通配当) 30円00銭 (特別配当) 5円00銭	1,396百万円	15.9%
<b>2023年5月期</b>	<b>—</b>		<b>35円00銭</b>	<b>35円00銭</b>		<b>15.8%</b>

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

四半期ごとの連結業績及びセグメント別業績データは <https://www.pasonagroup.co.jp/ir/data/quarter.html> に掲載します。

本資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。